

事業実施報告

開催日	令和7年8月5日（火）～6日（水）		
事業名	テンパーク冒険子ども食堂		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	34人
対象	連携機関から推薦された子ども食堂を利用している小学校4年生～中学生		
関係機関名	認定特定非営利活動法人インクルいわて、特定非営利活動法人いなほ、矢巾町社会福祉協議会（ここかむ食堂）、森の葉風工房葉っぱのうち、Cozy place		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

1泊2日の日程で、途中雨が降ったが、計画通り1日目はネイチャーゲーム、魚つかみ体験、火起こし体験、バーベキュー体験、キャンプファイヤー、花火を行った。2日目は、科学実験教室、夏休みの宿題、ツリークライミング体験、焼き板体験、フォトフレーム作り、振り返りを実施した。

〔成果〕

- ・5つの子ども食堂の協力をいただき、定員を超える38名の応募があり、最終34名の参加を得た。
- ・小4～中3までの異年齢の班にボランティアを固定して活動した。中学生やボランティア小学生に優しく接し、活動を重ねていく毎に班の雰囲気が良くなっていった。中3の女子は、「来年はボランティアとして参加したい」と話しており、今後の人間関係を形成する上でも重要な経験になったと考えられる。
- ・昨年度の企画評価委員会を受けて夏休みの思い出作りとなるような事業にするため、様々な体験活動を組み入れ、夏休みの自由研究や宿題対策を活動に入れた。アンケートで夏休みにもう一度やりたい活動を聞いたところ、ツリークライミング体験を挙げた参加者が半数いた。
- ・昨年度は参加者だった中学生男子が、今年度は高校生のボランティアスタッフとして、二日目の野外炊事の実地踏査を事前に行ってくれた。当日は残念ながら家庭の事情で参加できなかったが、年齢を重ねて参加していく際の、目指す目標像を見出すきっかけとなった。
- ・継続して参加している子どもたちは、昨年よりも成長がみられ、班の活動から逸脱せず、活動に参加する場面が増えていた。

〔課題〕

- ・バス代の高騰と依頼した講師が多かったため、バス代と講師料の支出が事業費を圧迫した。遠方への外出は厳しく、活動の拠点は岩手山青少年交流の家となった。
- ・自閉症、知的障害、不登校、起立性調節障害など配慮が必要な児童生徒が多く、連携スタッフやボランティアの協力は必須であった。大きなトラブルはなかったが、集団から逸脱する場面が多くみられ、班によっては掌握だけで大変であった。事前説明だけでなく、ボランティア養成事業でも配慮の必要な児童生徒への対応について時間を設ける必要がある。
- ・近年の猛暑により、夏の時期の事業は、熱中症対策等を講じても限界があった。体調不良のため途中で帰宅する児童がいたり、一日目を静養室で過ごす生徒もいた。エアコンのある研修室を増やす必要がある。
- ・体験活動を多く設定したため、ゆっくり過ごす時間がほとんどなかったため、子どもたちの感想に自由に遊ぶ時間が欲しかったとあった。そのため、時間設定に余裕をもたせる必要があった。

状況写真



「魚つかみ体験」



「火起こし体験」



「バーベキュー体験」



「科学実験教室」



「ツリークライミング体験」



「焼き板体験」